



中野冷機株式会社

2022年12月期 決算説明会

2023年3月8日

東京証券取引所スタンダード市場

証券コード：6411

- I. 2022年12月期 決算の概要**
- II. 2023年12月期 業績予想**
- III. 中長期経営計画“N-ExT2023”**
- IV. 株主還元方針**
- V. 企業価値向上に向けた取り組み**
- VI. 参考資料**



I. 2022年12月期 決算の概要

1. 業績サマリー
2. 損益計算書
3. 増減要因分析
4. 販売実績（事業分野別・販売国別）
5. 貸借対照表
6. キャッシュフロー計算書



2022年は全事業合計で売上高275億円の実績（前年同期比15.6%減）



【ショーケース・倉庫事業】⇒減収 （前年同期比17.1%減）

- ショーケース事業は、建築資材や物流費の高騰などによる設備投資の抑制と店舗の改装需要が一段落したことによる引き合いの減少が影響し減収
- 半導体や電子部品の供給不足による生産活動の制約なども影響
- 倉庫事業は、ネットスーパーや冷凍食品需要の拡大を背景に堅調に推移



【メンテナンス事業】⇒増収 （前年同期比11.0%増）

- 提案型メンテナンスによる店舗サポートの強化により売上増進
- 空調設備のメンテナンス新規受託により増収



【海外事業】⇒減収 （前年同期比42.8%減）

- 新型コロナ感染拡大に伴う上海市のロックダウンが大きく影響
- 経済活動再開後も、ゼロコロナ政策による行動制限と小売店の設備投資抑制が継続

2. 2022年12月期 損益計算書



売上高：ショーケース事業の受注減少と中国におけるロックダウンの影響により減収
利益：売上高の減少に加え、原材料価格の高騰と生産台数の減少に伴う操業度の低下などにより減益

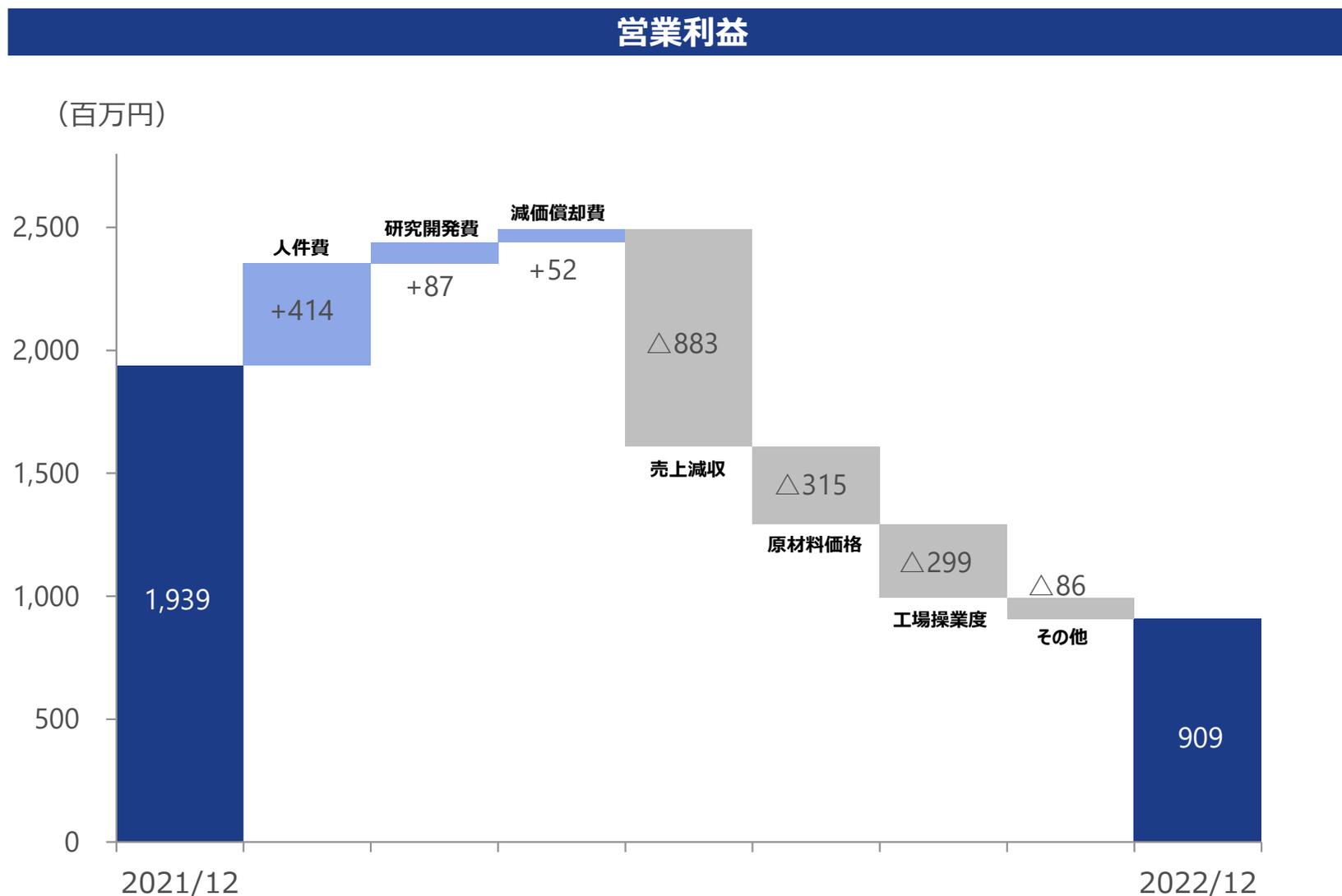
単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2021/12		2022/12				前期比 増減
	実績	構成比	当初予想 (22.2.9)	修正予想 (22.8.12)	実績	構成比	
売上高	32,606	100.0	29,700	28,700	27,534	100.0	△ 5,072
ショーケース ・ 倉庫事業	25,509	78.2	—	—	21,151	76.8	△ 4,358
メンテナンス事業	4,323	13.3	—	—	4,796	17.4	473
海外事業	2,774	8.5	—	—	1,586	5.8	△ 1,187
営業利益	1,939	5.9	1,800	982	909	3.3	△ 1,030
経常利益	2,054	6.3	1,900	1,095	1,011	3.7	△ 1,042
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,406	4.3	1,291	797	750	2.7	△ 655

3. 2022年12月期 増減要因分析

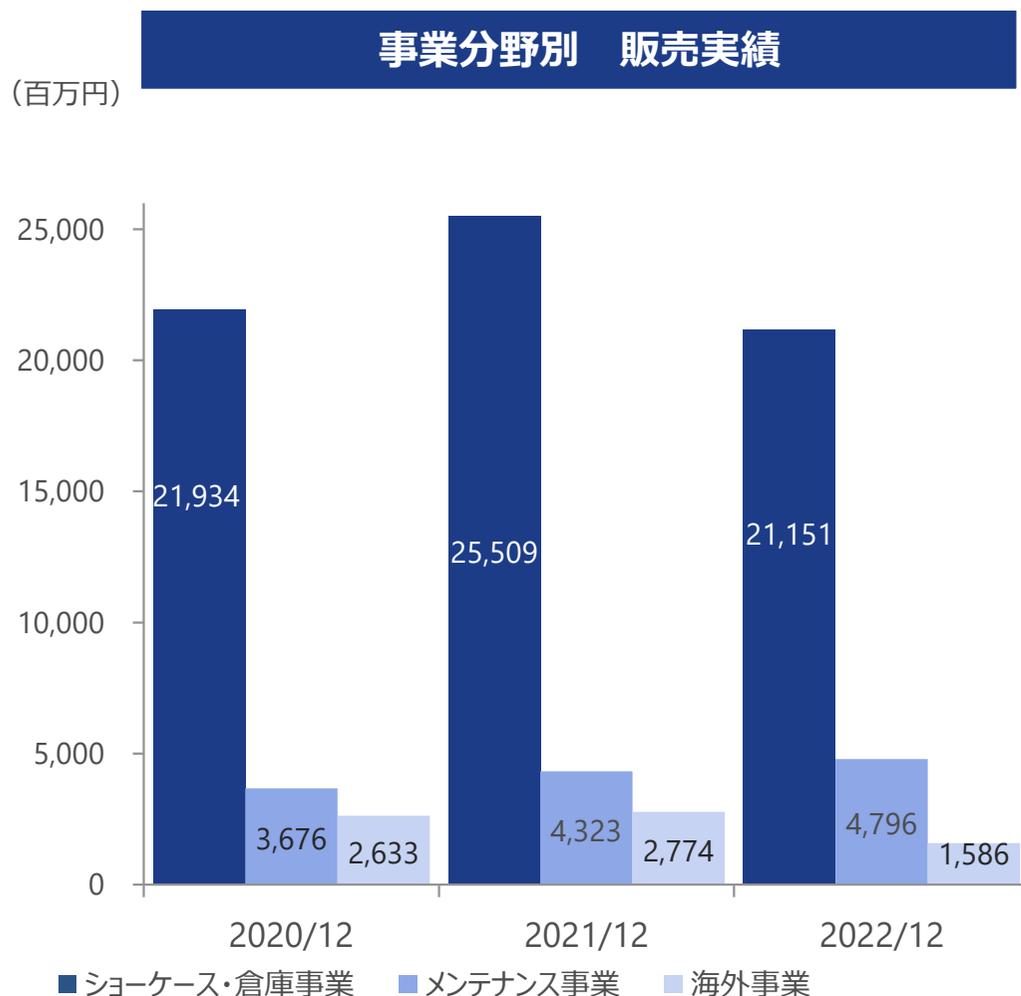
増益要因：残業代、販管費用など人件費経費の減少

減益要因：売上の減収に加え、受注減により生産台数が減少し工場の操業度が低下したこと
原材料価格の高騰と販売価格への転嫁が進まなかったことが影響

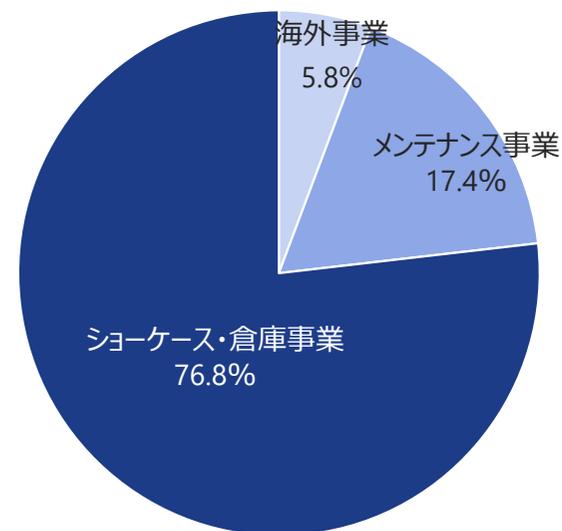


4-1. 2022年12月期 販売実績（事業分野別）

- ・ ショーケース・倉庫事業：顧客の設備投資抑制により減収
- ・ メンテナンス事業：提案型メンテナンスの継続と空調メンテナンス売上増加により増収
- ・ 海外事業：コロナの影響による設備投資抑制により減収

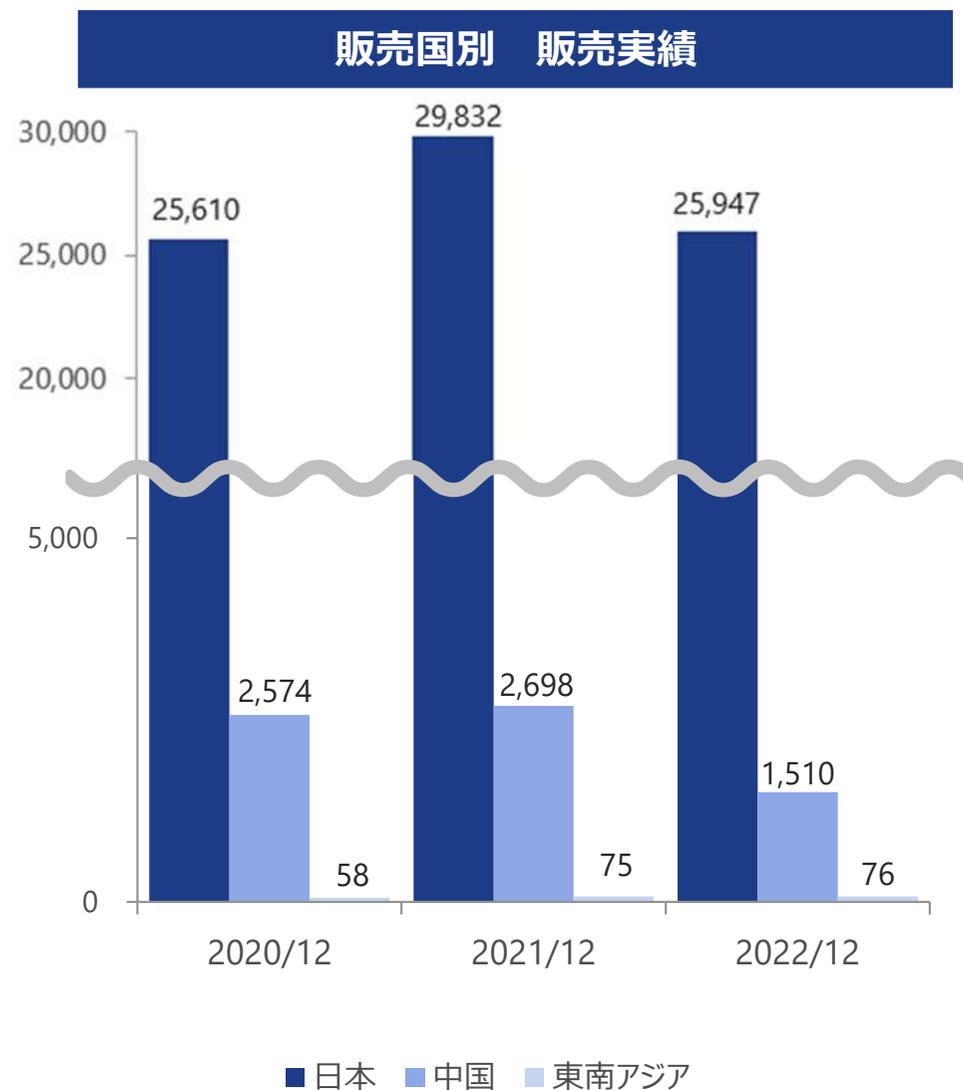


2022年12月期
事業分野別 販売実績構成比

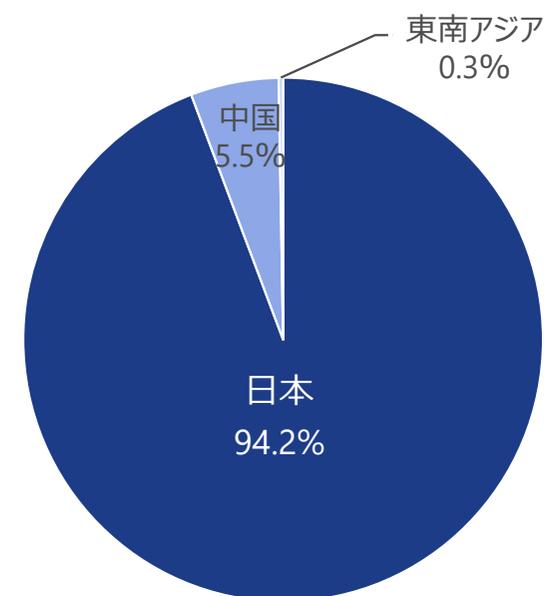


4-2. 2022年12月期 販売実績（販売国別）

- 日本：建築資材や物流費の高騰により店舗の改装需要が減少
- 中国：ゼロコロナ政策による行動制限の結果、小売店の設備投資が抑制



2022年12月期
販売国別 販売実績構成比



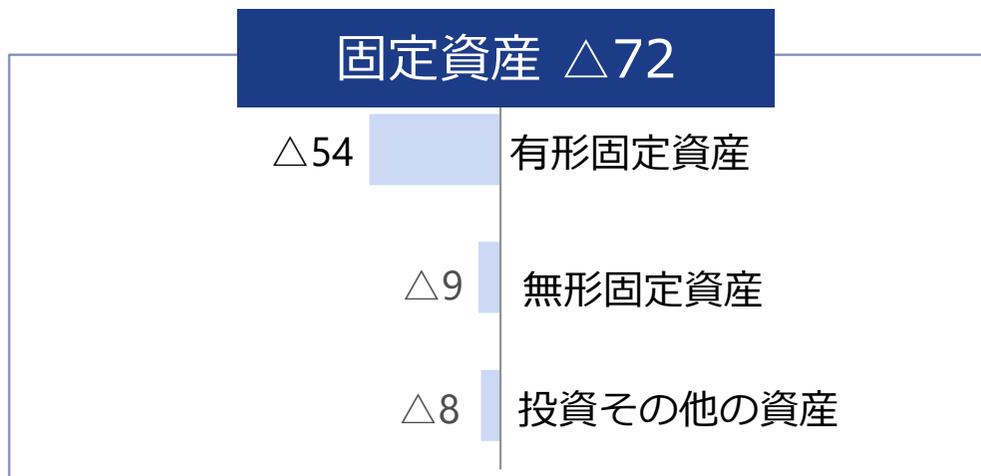
5. 2022年12月期 貸借対照表



2022年12月期第2四半期末
総資産 34,109百万円

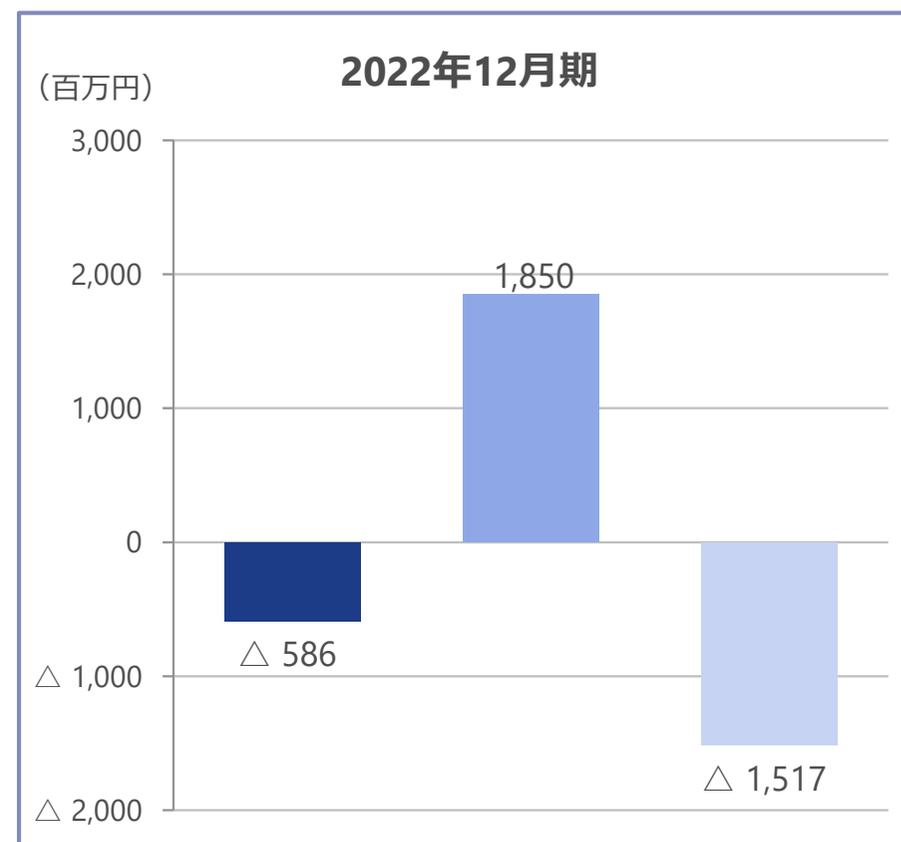
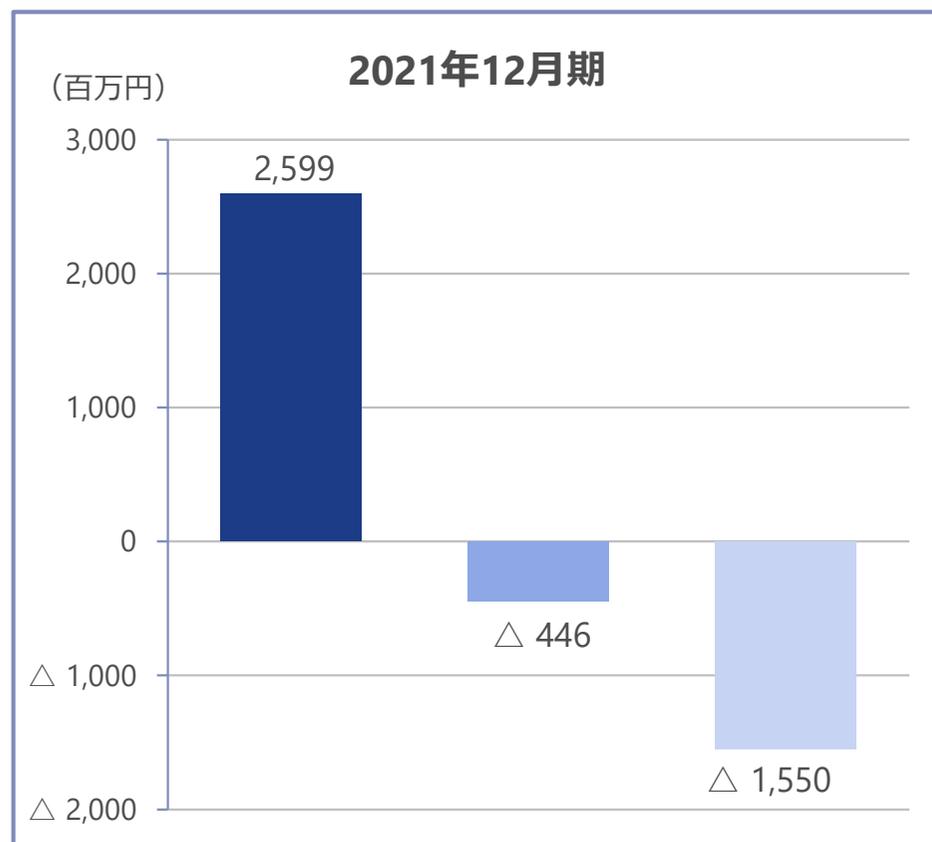
△1,091百万円

2022年12月期末
総資産 33,018百万円



自己資本比率 2022年2Q 70.2% 2022年4Q 73.0% +2.8%

6. 2022年12月期 キャッシュフロー計算書



■ 営業活動CF ■ 投資活動CF ■ 財務活動CF

【ポイント】 《営業活動CF》

- 税金等調整前当期純利益 1,010百万円 (前年同期比 △1,042百万円)
- 法人税等の支払額 735百万円 (前年同期比 △413百万円)

《投資活動CF》

- 定期預金の解約 2,286百万円 (前年同期比 +2,015百万円)

II. 2023年12月期 業績予想

1. 業績サマリー
2. 損益計算書
3. 増減要因分析
4. 販売見込（事業分野別・販売国別）



2023年は全事業合計で売上高305億円を見込む（前年同期比10.8%増 予想）



【ショーケース・倉庫事業】（前年同期比7.0%増予想）

- スーパーマーケット、コンビニエンス・ストアともに環境設備投資への提案を強化
- 冷凍食品需要の拡大など消費者ニーズに沿った設備提案を促進
- 倉庫事業は、今後も拡大が見込める温度管理倉庫需要の取り込みに向けた既存客先への営業強化と宅配事業者などの新規開拓を計画



【メンテナンス事業】（前年同期比2.0%増予想）

- 提案型メンテナンスの更なる拡大と環境対応を含めた老朽化設備の更新提案を強化して売上増進を計画
- 店舗空調設備の保守点検などメンテナンス領域の拡大を推進



【海外事業】（前年同期比87.4%増予想）

- 中国においては、ゼロコロナ政策の解除によりショーケースの販売台数が回復する見込み
- 東南アジアへの営業を積極的に展開

2. 2023年12月期予想 損益計算書



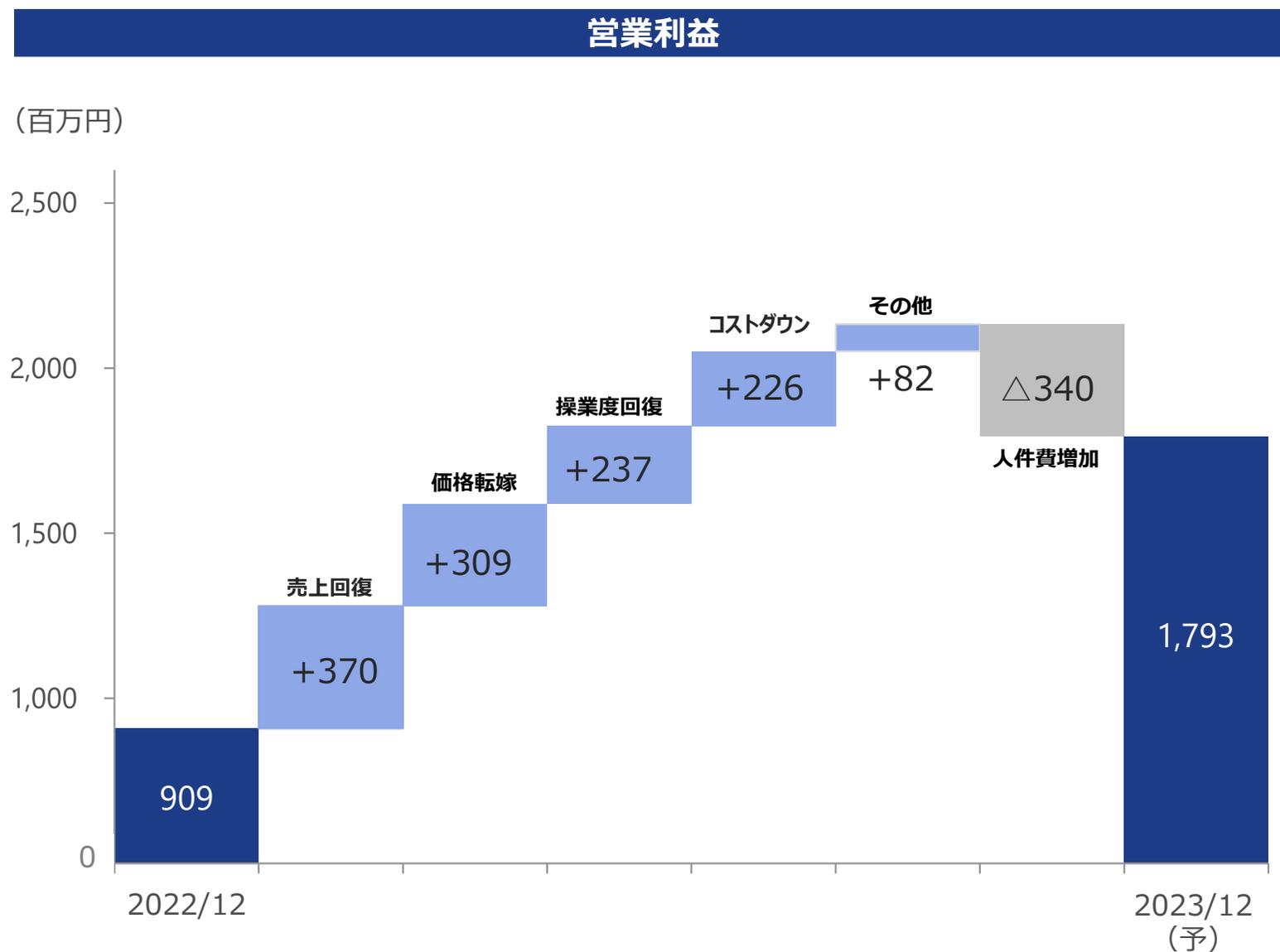
売上高：ショーケース・倉庫事業の受注増加と中国の回復により増収を見込む
利益：売上高の増加に加え、生産性の改善とコストダウンに取り組み増益を目指す

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2022/12		2023/12 前期比			
	実績	構成比	予想	増減	伸率	構成比
売上高	27,534	100.0	30,500	2,965	10.8	100.0
ショーケース・倉庫事業	21,151	76.8	22,634	1,482	7.0	74.2
メンテナンス事業	4,796	17.4	4,894	97	2.0	16.1
海外事業	1,586	5.8	2,972	1,385	87.4	9.7
営業利益	909	3.3	1,793	883	97.2	5.9
経常利益	1,011	3.7	1,883	871	86.2	6.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	750	2.7	1,315	564	75.3	4.3

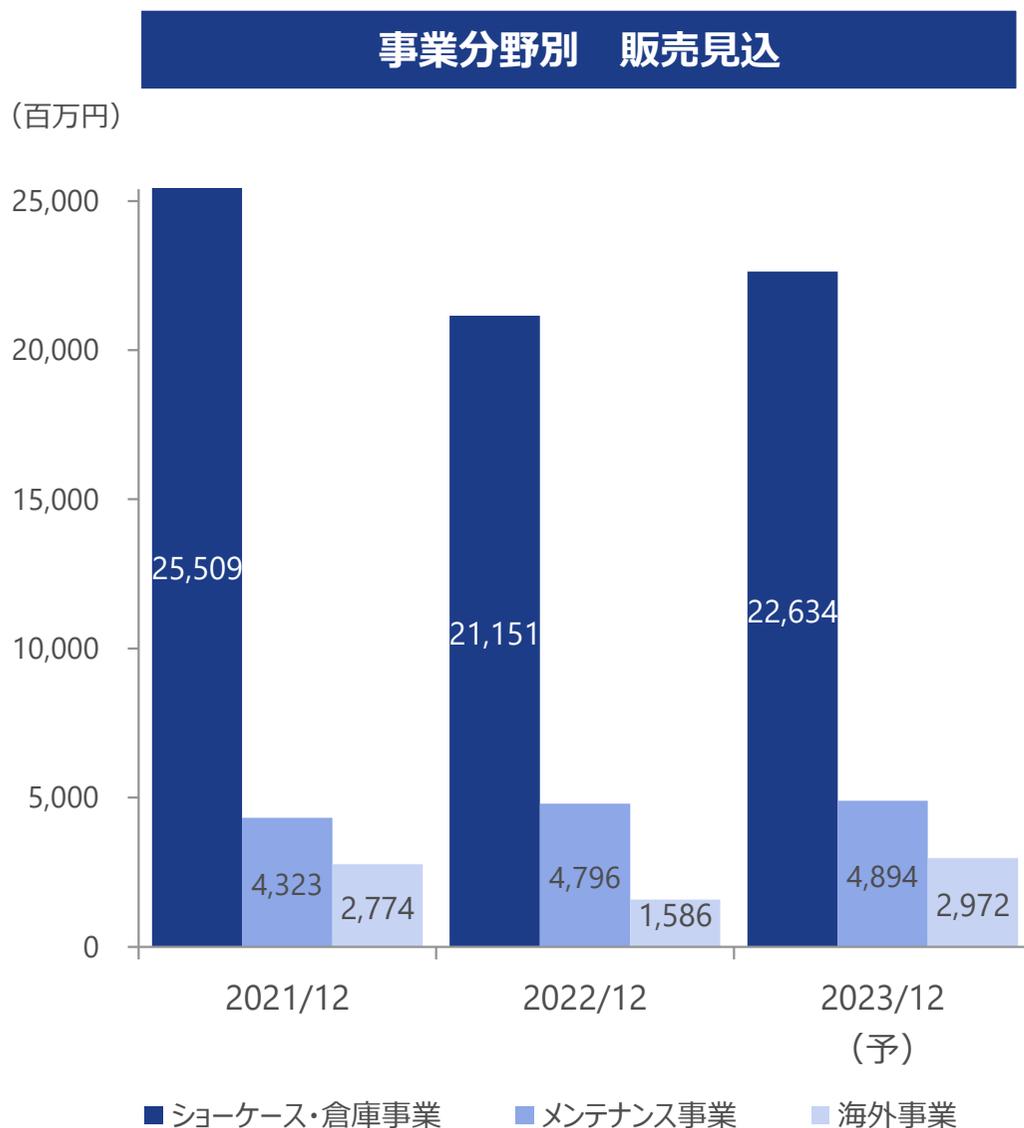
3. 2023年12月期予想 増減要因分析

売上回復、操業度回復、コストダウンなどにより増益を見込む

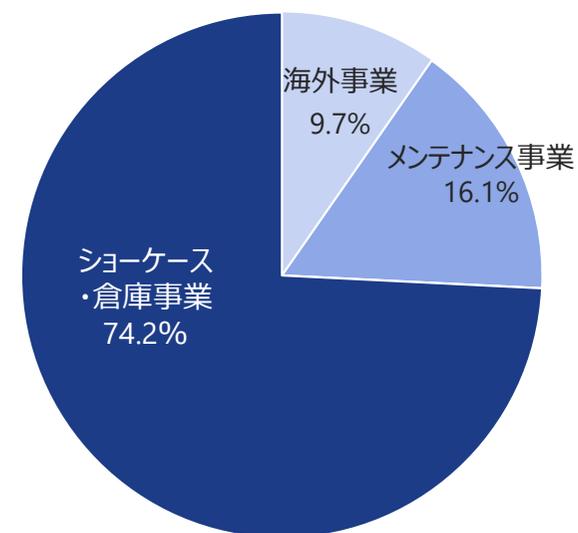


4-1. 2023年12月期予想 販売見込（事業分野別）

全ての事業分野で受注増を見込み、増収を予想



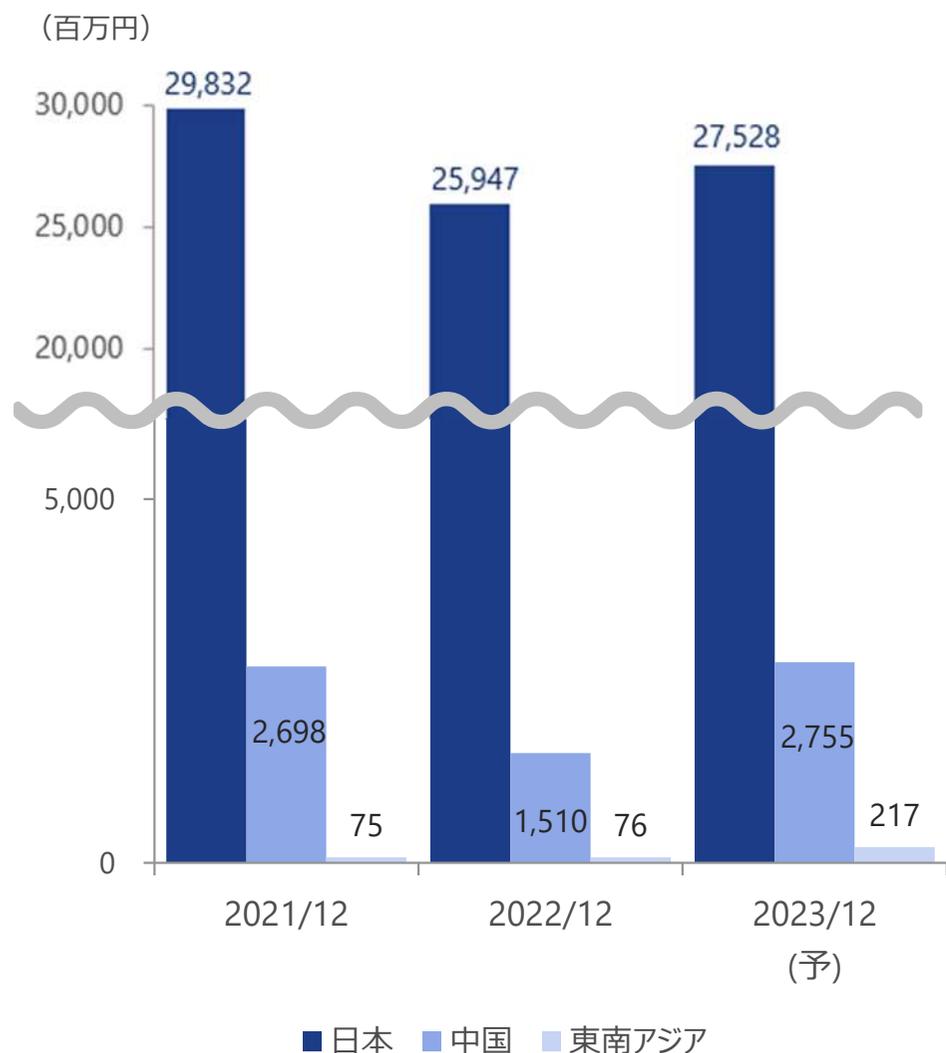
2023年12月期予想
事業分野別 販売見込構成比



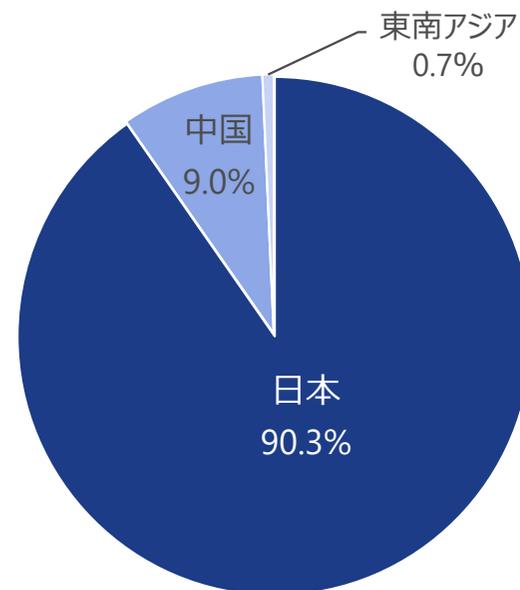
4-2. 2023年12月期予想 販売見込（販売国別）

日本、中国ともに増収予想 東南アジア向けの営業を継続し販売促進

販売国別 販売見込



2023年12月期予想
販売国別 販売見込構成比



III. 中長期経営計画“N-ExT2023”

1. 中長期経営計画の概要

2. 事業計画進捗

3. 設備投資の進捗状況



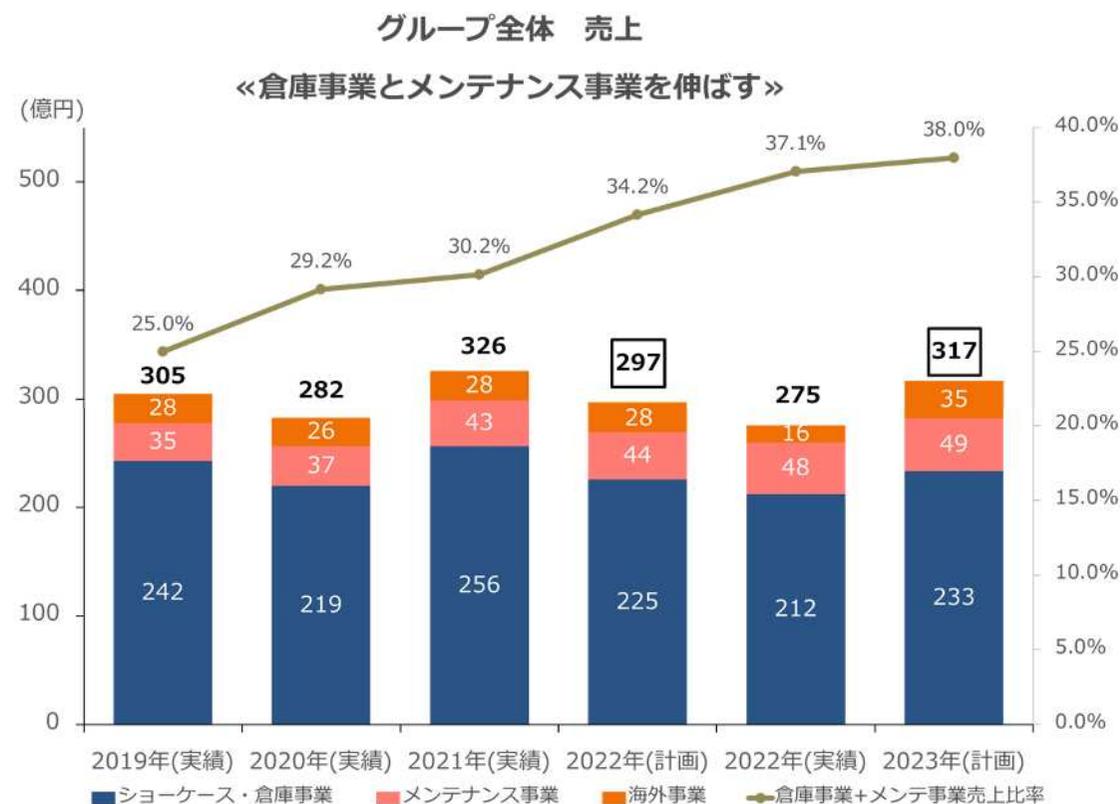
1. 中長期経営計画概要

N-ExT 2023 のコンセプト

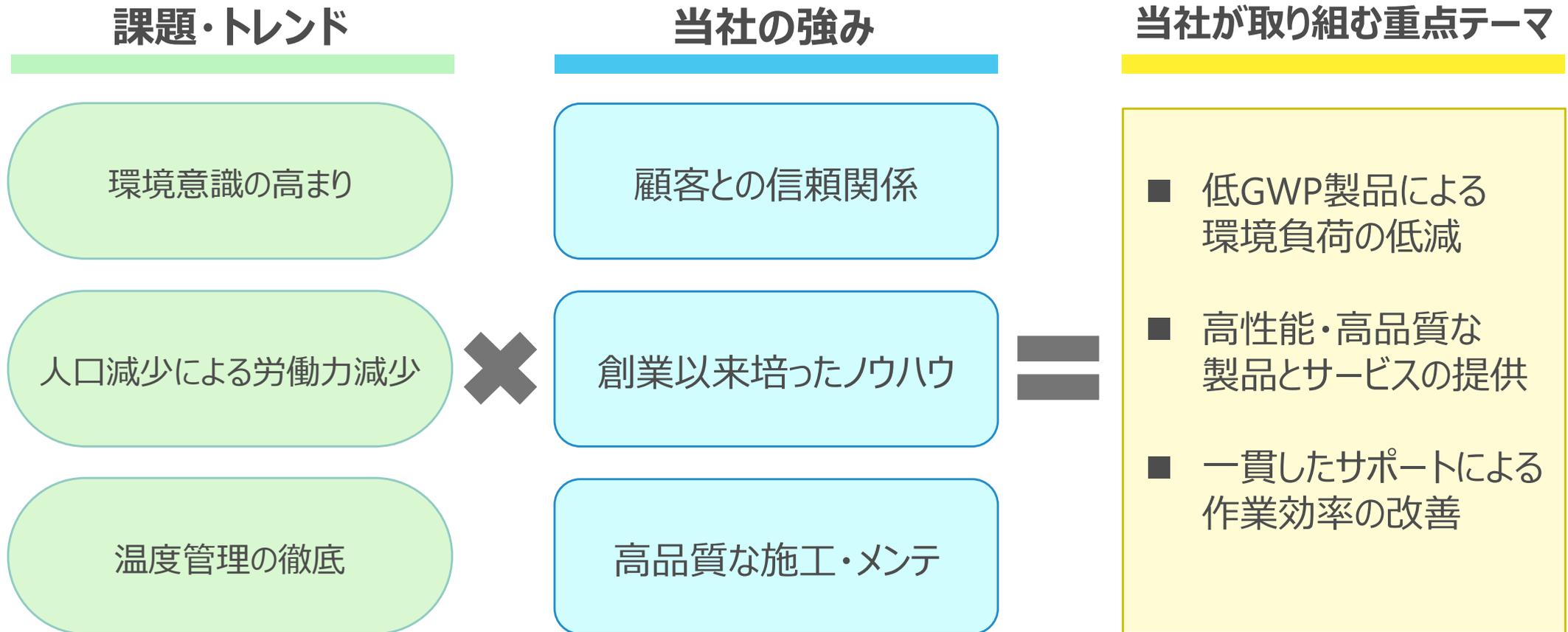
◆ 「冷やす」技術をもとに最良の製品・サービスを生み出し、顧客と共に新しい課題に取り組むことで社会に貢献する

- A.安定：新技術を活用した、更なる効率化を実現できる製品・サービスの提供
- B.成長：従来のお客様の「冷やす」に留まらないお悩み・ご要望の解決
- C.挑戦：新たなお客様へ向けた、「冷やす」を起点とするサービスの提供

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 計画
売上高	305億円	282億円	326億円	275億円	317億円
営業利益	22億円	12億円	19億円	9億円	24億円
EBITDA	27億円	17億円	26億円	15億円	31億円
ROE	5.9%	3.7%	5.7%	3.1%	6.0%以上



当社の強みを活かした伝統と革新の新しい「波」で、社会課題の解決に取り組む



III. 中長期経営計画“N-ExT2023”

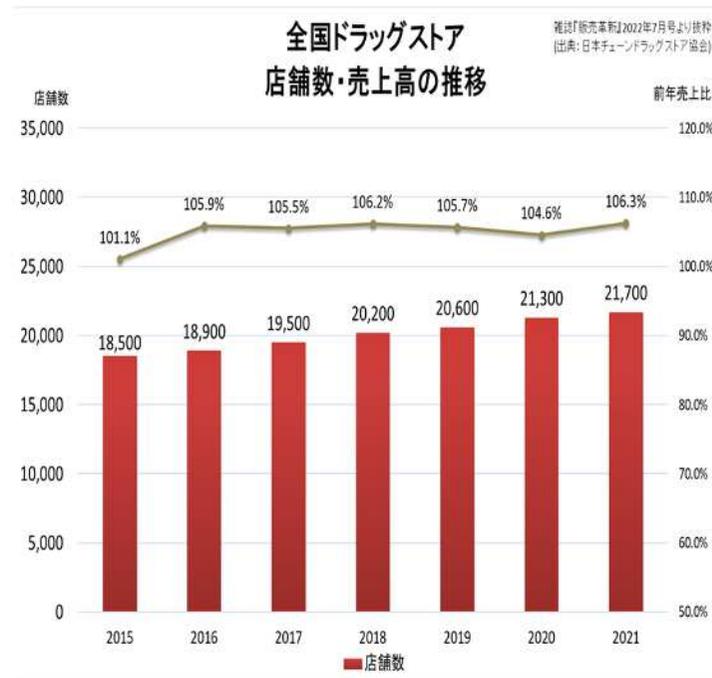
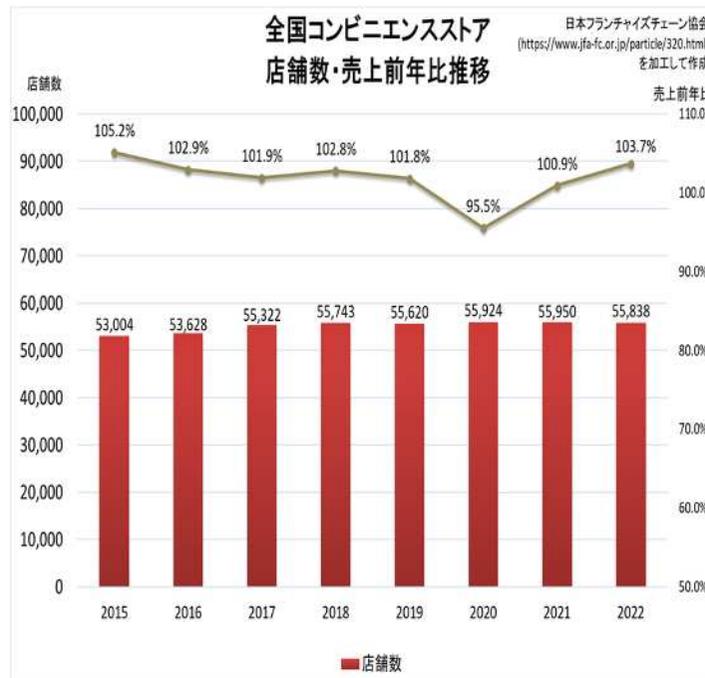
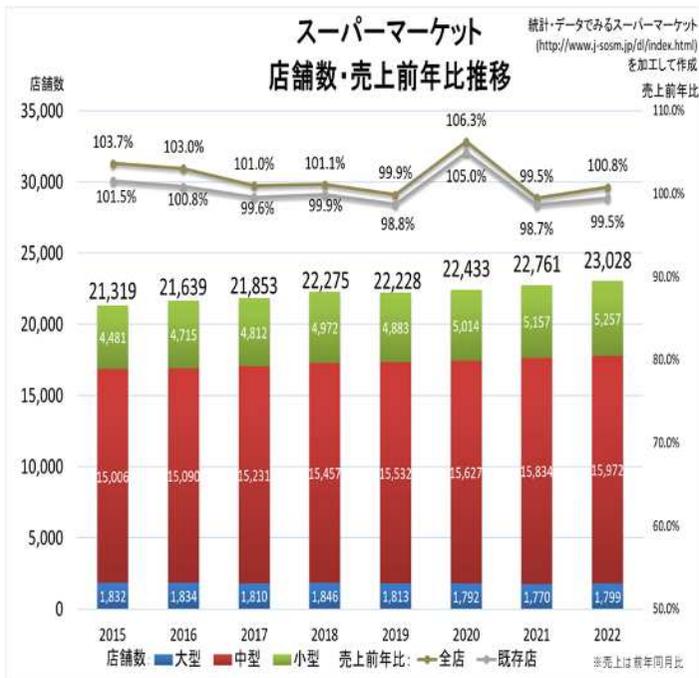
1. 中長期経営計画の概要

2. 事業計画進捗

3. 設備投資の進捗状況



2-1. 食品小売業界 市場推移



◆スーパーマーケット、コンビニエンスストア店舗数・売上推移

- スーパーマーケットは店舗数が増加も、業績は停滞傾向。商品の値上げの影響を大きく受けている。
- コンビニについては新規出店抑制が継続も、業績は回復傾向。行動制限が解除され、「人の出」もコロナ前に戻りつつある。
- ドラッグストアは店舗数、売上高ともに増加傾向。生鮮食品の取り扱いを強化し、他業態からのシェアを獲得。

顧客のニーズに寄り添った取り組みを強化し、維持・拡大を図る

新技術を活用した、更なる効率化を実現できる製品・サービスの提供

現在の状況

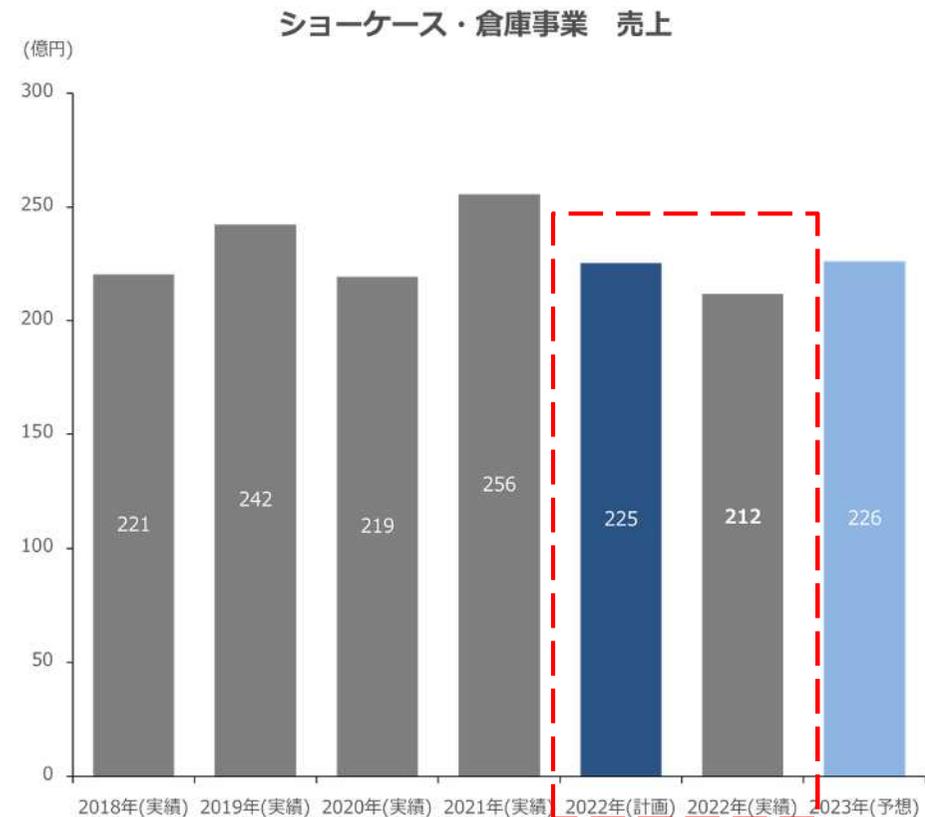
- 環境意識の高まり、電気代の高騰による環境配慮、省エネ製品・サービスへの更新需要が増加。
- 新規・地方客先の営業活動を強化し、受注を獲得。
- 客先の業績による設備投資の増減が当社業績に影響。
- 倉庫事業は、需要の拡大を背景に堅調に売上を確保。

今後の施策

- 環境配慮に向けた技術開発・売り込みの強化
⇒ 冷媒のノンフロン化、低GWP化、省エネ性の高い製品
- 店舗環境、作業場環境改善のための提案強化
(結露・コールドアイル等)
- クラウドシステムを利用したシステムの売り込み
⇒ 異常予知診断
⇒ 店舗全体のトータル制御



21



従来のお客様の「冷やす」に留まらないお悩み・ご要望の解決

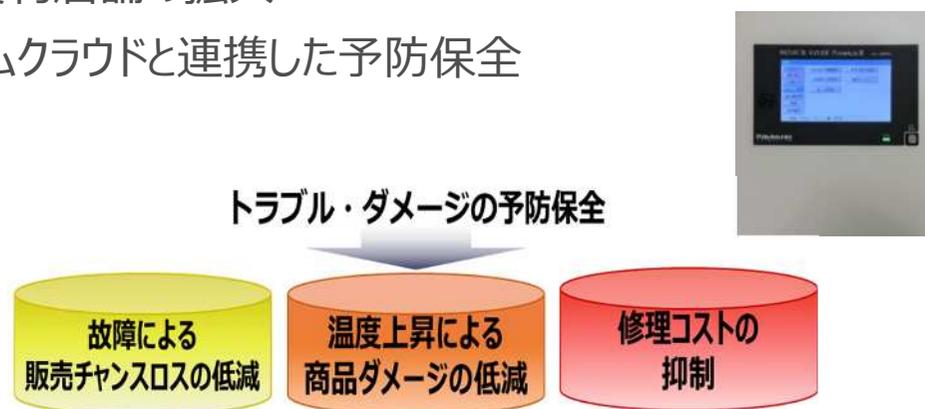
現在の状況

- 空調の点検・修理の売上が拡大し、売上伸長。
- メンテナンス範囲の拡大、提案メンテナンスによる店舗サポートを継続。

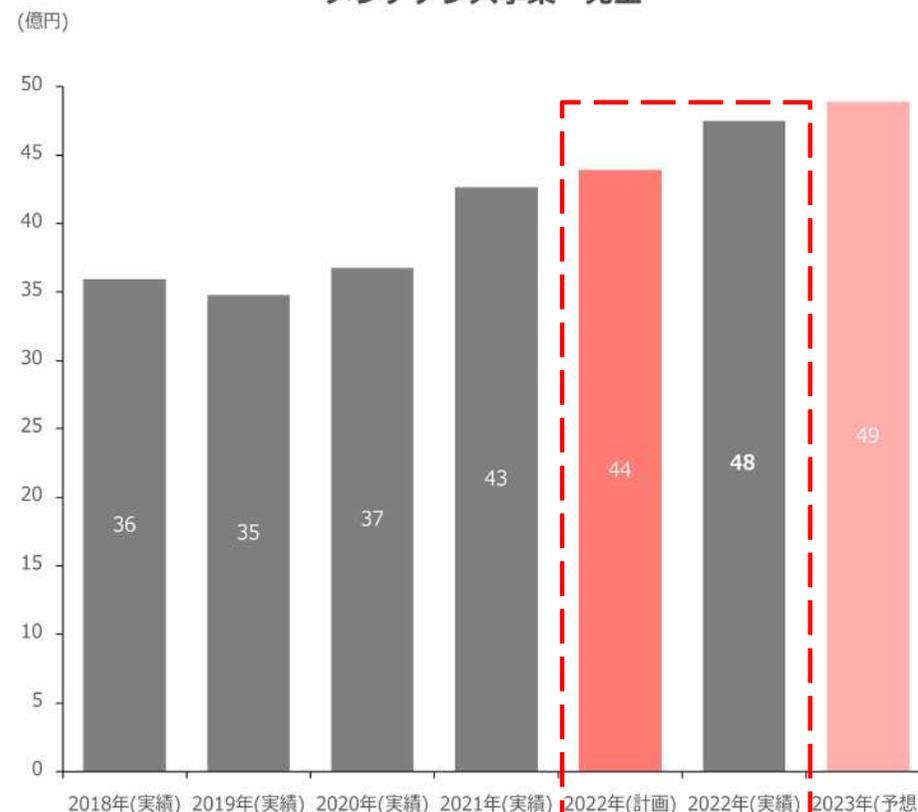


今後の施策

- 保全メンテナンス提案を継続し、季節要因に左右されない売上獲得に取り組む
- メンテナンス領域の拡大に向けた対応力強化
 - ⇒ 新規委託先、人材採用、教育
 - ⇒ 点検、修理の省人化・効率化
- 保守契約店舗の拡大
- センサムクラウドと連携した予防保全



メンテナンス事業 売上



新たなお客様へ向けた、「冷やす」を起点とするサービスの提供

現在の状況

- 現地調査を再開し、計画を見直し中。
日系企業への営業活動を開始。
- 中国は、昨年ロックダウンにより一時的に営業活動が停止。
ネット販売の普及に伴い、実店舗の業績が低迷。

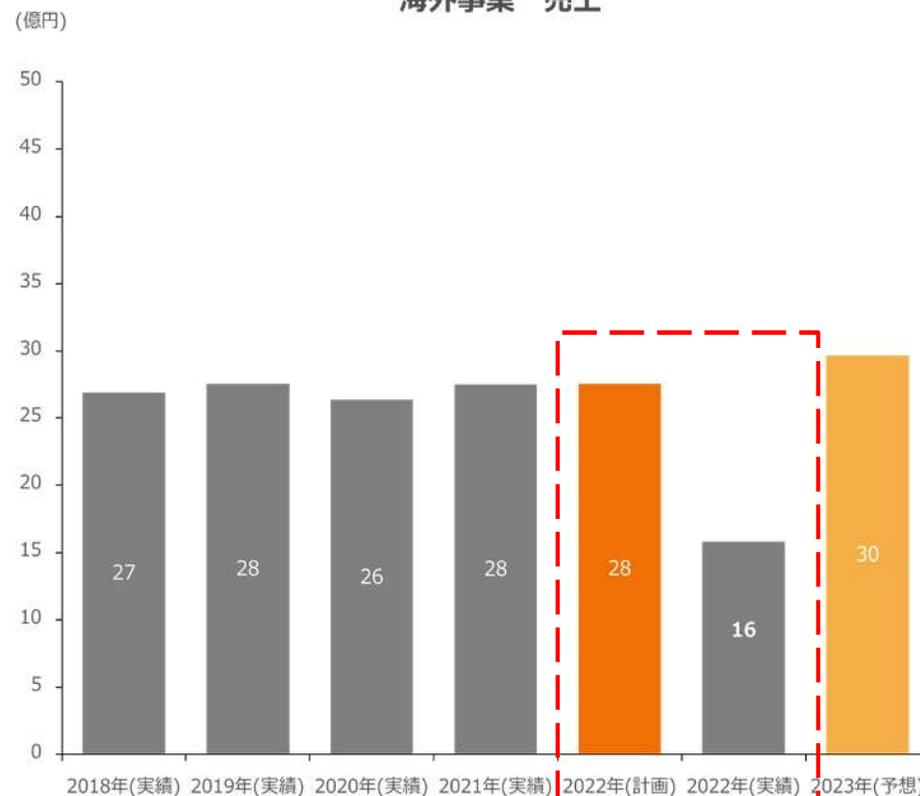


今後の施策

- 中国合弁との連携強化に向けた取組みを継続
⇒ 海外事業における製造拠点
- 日系企業・現地企業への営業を継続
⇒ 既存の顧客接点を起点としたルート開拓
⇒ 現地活動を通じた顧客の開拓
- 現地人材の採用と技術者育成
- 現地委託店ネットワーク確立



海外事業 売上



III. 中長期経営計画“N-ExT2023”

1. 中長期経営計画の概要

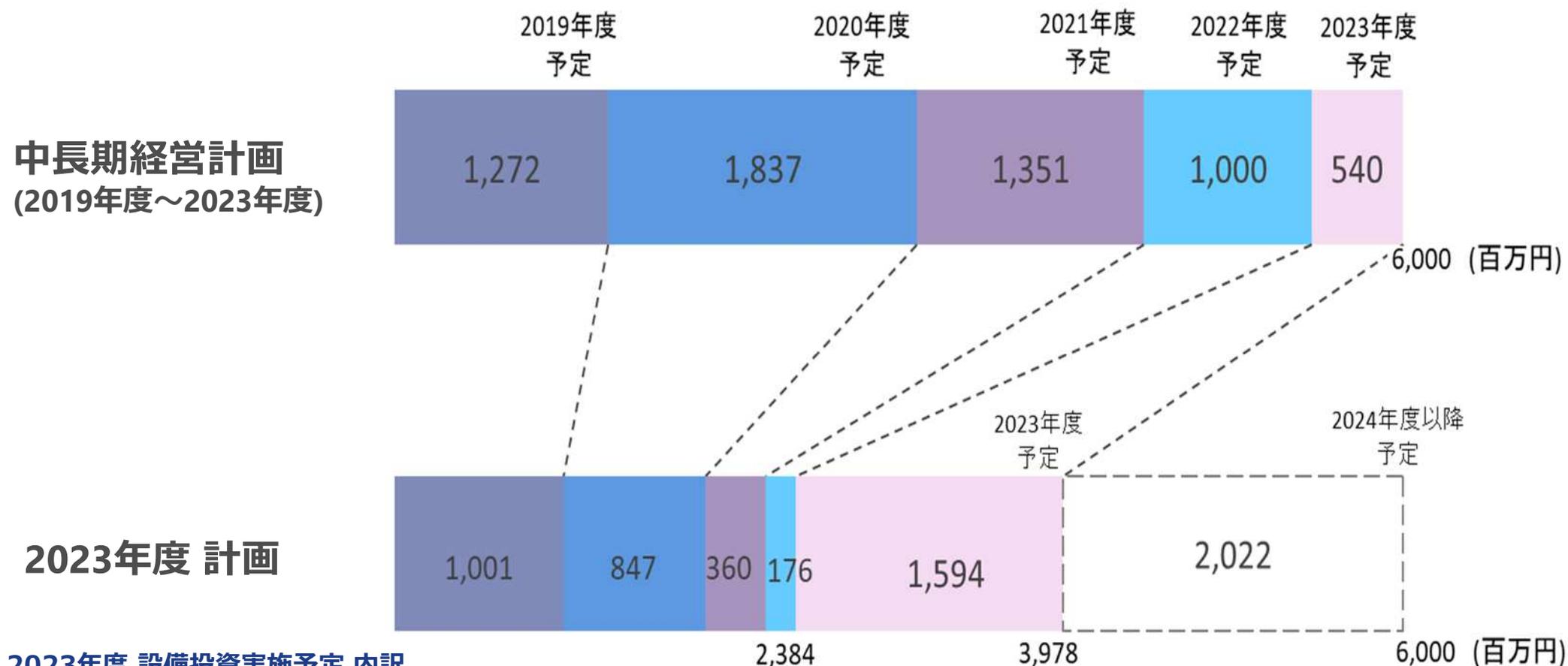
2. 事業計画進捗

3. 設備投資の進捗状況



3. 設備投資の進捗状況

2022年度は176百万円の投資を実施
2023年度は1,594百万円の投資を予定



2023年度 設備投資実施予定 内訳

- 生産設備 : 2.1億円
- 環境整備 : 0.8億円
- 基幹システム : 2024年に更新予定
- 業務改善 : 2.9億円
- 事業拡大 : 10.2億円

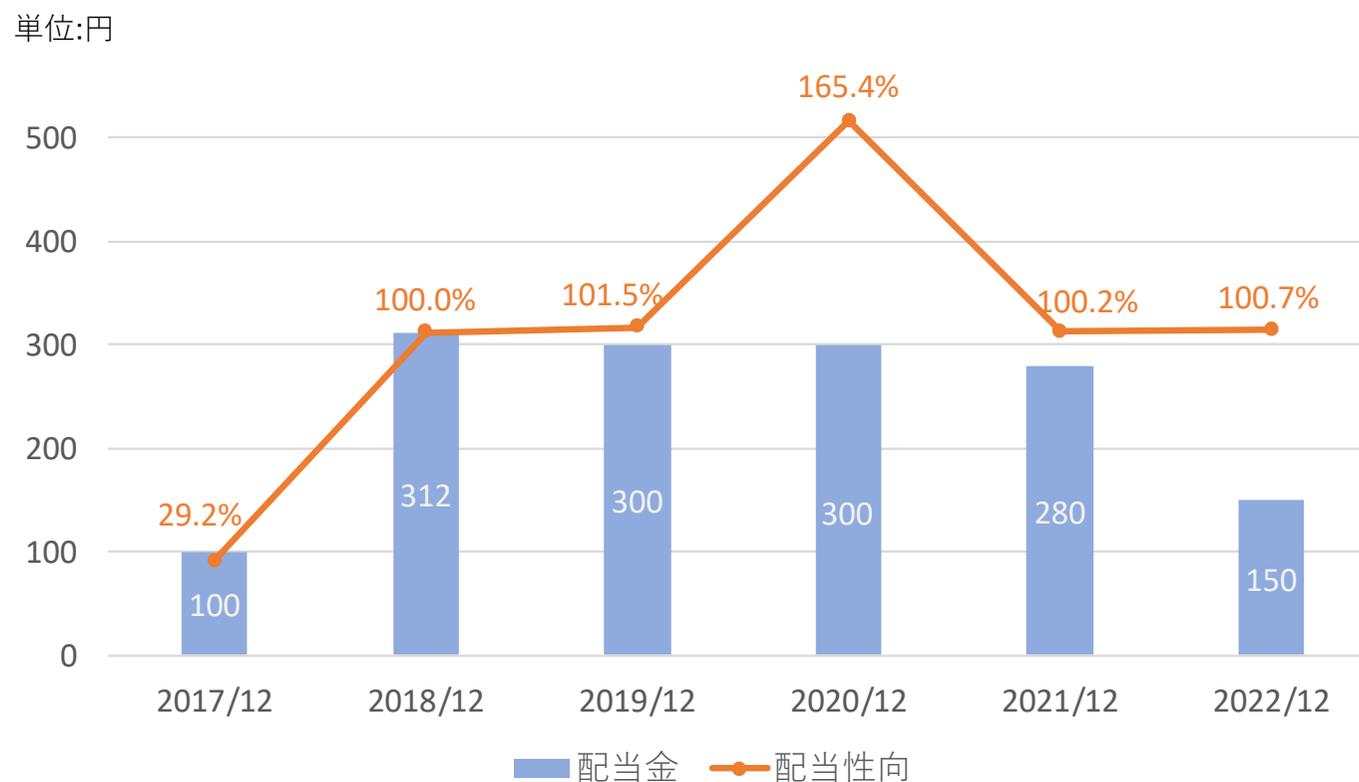
IV. 株主還元方針



配当方針

- 2022年12月期の連結配当性向について、年間100%とし、年間1株当たり配当金額を150円とする。
- 2023年12月期も、株主利益還元を基本とする配当方針を継続し、連結配当性向について年間100%を目標とする。

配当実績

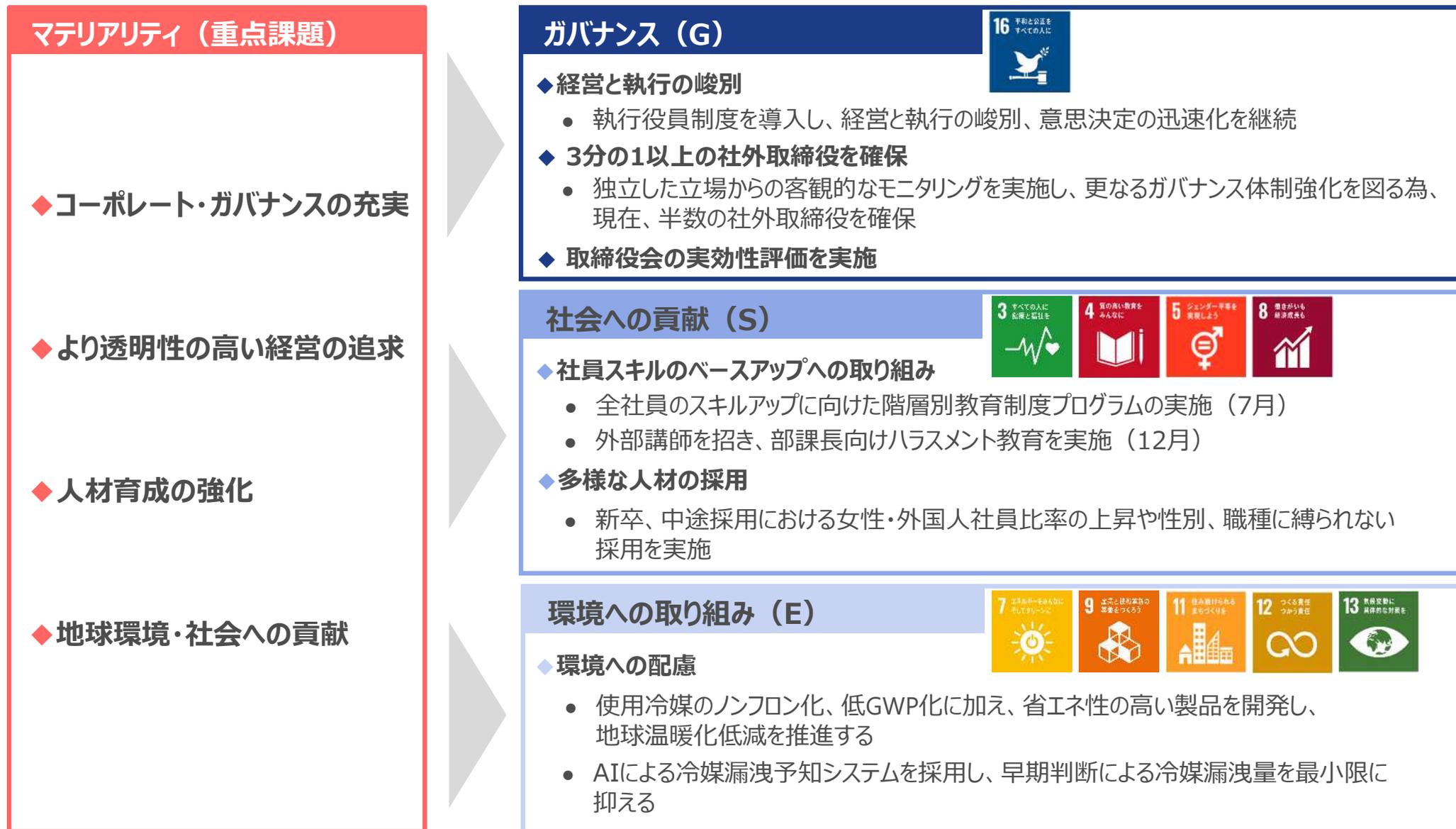


V. 企業価値向上に向けた取り組み

1. 企業価値向上に向けた取り組み
2. 環境に向けた取り組み
3. カーボンニュートラルに向けた取り組み



長期にわたる安定成長を通して、全てのステークホルダーとの良好な関係の確立・継続を目指す



社会への貢献 (S)



新卒・中途
女性採用割合
21.9%
(2022年実績)

平均勤続年数
男性17年6ヵ月
女性12年6ヵ月
(2022年12月末時点)

有給休暇取得率
53.9%
(2021年度実績)

育児休業からの復職率
100%
(2022年実績)

定年後の再雇用者数
55人
(2022年12月末時点)

2. 環境に向けた取り組み

健全な事業活動を基盤とした経営で、ステークホルダーの皆様に対する責任を果たしつつ、お客様と共に社会的課題に取り組み、信頼される企業を目指す



お客様・社会的課題の解決

社会に信頼される企業

中長期経営計画

省エネ

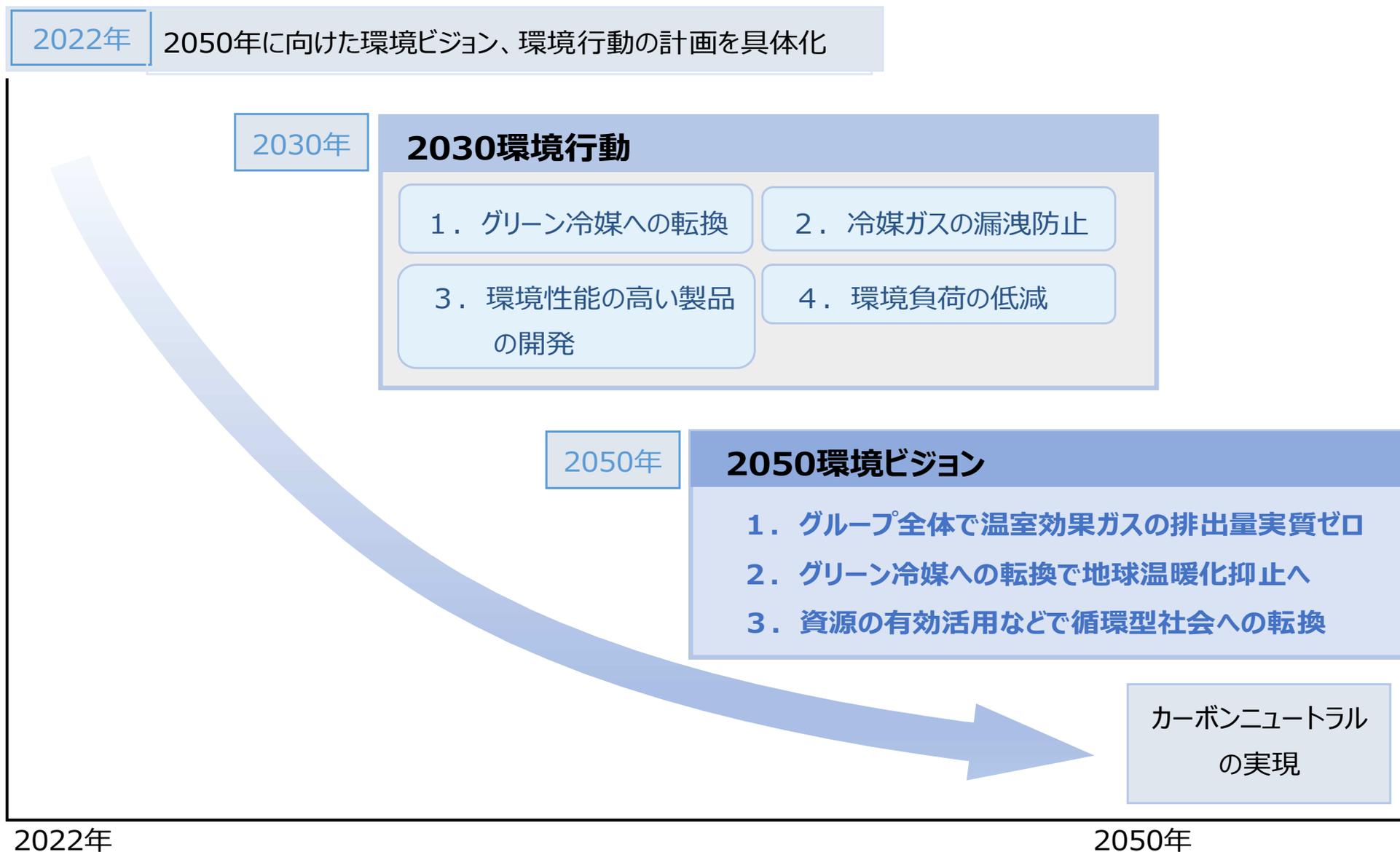
省人・省力化

温室効果ガスの削減

2030環境行動

2050環境ビジョン

2050年のカーボンニュートラルに向けた環境ビジョン、環境行動を具体化



2050環境ビジョン

中野グループでは、2050年を見据えて「2050環境ビジョン」を策定し、温室効果ガスの排出量の実質ゼロを目指してまいります。

1. グループ全体で温室効果ガスの排出量実質ゼロへ

- ・使用冷媒のノンフロン化、低GWP化への転換を推進し、温室効果ガス排出量削減に貢献します。

2. グリーン冷媒への転換で地球温暖化抑止へ

- ・ノンフロン冷媒、低GWP冷媒など環境負荷の低いグリーン冷媒を使用した環境にやさしい製品を提供するとともに、製品・施工・メンテナンスでの冷媒ガス漏洩ゼロを目指します。

3. 資源の有効活用などで循環型社会への転換

- ・事業活動や製品・サービスで資源の有効活動を進めるとともに、業界団体・行政などとの連携のもと、循環型社会への転換を図って参ります。
- ・省エネ性・省力化の高い製品の開発による資源の有効活用、事業活動における廃棄物の削減や使用済み製品の3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進を図ります。

2030環境行動

1. グリーン冷媒への転換

2. 冷媒ガスの漏洩防止

3. 環境性能の高い製品の開発

4. 環境負荷の低減

2030環境行動

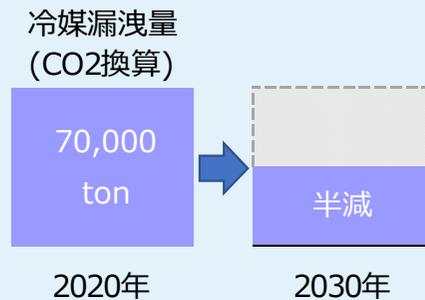
1. グリーン冷媒への転換

- ・使用冷媒のノンフロン化、低GWP化への転換を推進し、温室効果ガス排出量削減に貢献します。
- ・2030年までに製品に使用する冷媒の温暖化係数の半減を目指します。



2. 冷媒ガスの漏洩防止

- ・2023年よりAIによる冷媒漏洩予知システムを採用し、早期判断による冷媒漏洩量を最小限に抑えます。
- ・保守契約による定期的な点検により、冷媒漏洩防止に努めます。
- ・確実な施工、メンテナンスで漏洩に対する品質を向上させます。



3. 環境性能の高い製品の開発

- ・使用冷媒のノンフロン化、低GWP化に加え、省エネ性の高い製品を開発、市場投入することにより、ライフサイクル全体での地球温暖化低減を推進します。
- ・空調システムと冷凍システムを連携させて、店内環境に追従したより効率的なシステムを開発し、店舗全体でのCO2排出量を削減します。

<2030年に向けての省エネ計画>



4. 環境負荷の低減

- ・省エネ製品の導入や再生可能エネルギーの活用を通じて、事業活動全般におけるCO2排出量の削減を進めるとともに、廃棄物の削減や使用済み製品の3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進を図ります。

<本社ビル太陽光発電>



VI. 参考資料



設立

1946年（創業1917年）

資本金

8億2,265万円

事業内容

- 小売店の商品陳列に利用される冷凍・冷蔵ショーケースの販売・メンテナンス
- 冷凍・冷蔵倉庫の建設・メンテナンス

所在地

- 本社 : 東京
- 支店・営業所 : 大阪・岩手
- 工場 : 茨城
- サービスステーション : 神奈川・千葉・茨城・福島



子会社

- 上海海立中野冷機 有限公司
- 株式会社 中野冷機神奈川
- 大分冷機 株式会社



従業員

570人（2022年12月末）

Nakano

1917年
(大正6年)

東京市麻布区新広町に
初代会長 故中野留吉氏が
鉄工所を創設



1954年
(昭和29年)

我が国最初の溶接
構造ステンレス製
ショーケースを開発

1946年
(昭和21年)

株式会社中野冷凍
機製作所の商号に
より、資本金
195千円をもって
東京都港区芝浦
2丁目3番地に設立

1956年
(昭和31年)

文部省第1次
南極地嶺観測隊用の
冷凍食品貯蔵用
冷凍ユニットを
製造納入



1974年
(昭和49年)

セブンイレブン
1号店・豊洲店を
施工

1980年
(昭和55年)

中野冷蔵
株式会社に
社名変更



1985年
(昭和60年)

港区芝浦
2丁目15番地4号に
新本社ビルを建設

1963年
(昭和38年)

埼玉県川口市に
ショーケース工場
(原工場)を建設

1948年
(昭和23年)

港区西芝浦
3丁目1番地に
芝浦新工場を建設



1924年
(大正13年)

中野式
アンモニア冷凍機を
開発し、販売を開始

1955年
(昭和30年)

大型オープン
ケースを開発し、
生産販売開始



1959年
(昭和34年)

港区西芝浦
3丁目2番地に
本社ビルを
建設、移転



1968年
(昭和43年)

食品店用設備
機器メーカー
"ハスマン社(米国)"
と技術販売
提携契約を締結



1981年
(昭和56年)

全製造部門を
結城工場に集結

1976年
(昭和51年)

茨城県結城市に
結城工場を建設
(製造部門を原工場
から結城工場へ移動)



1987年
(昭和62年)

東海道新幹線
ひかり号の
ビューフェ用
カフェテリア専用
ショーケースを開発



1994年
(平成6年)

中国・上海に
合弁会社
「上海双鹿中野冷蔵
有限公司」を設立

2000年
(平成12年)

結城工場にて
環境マネジメント
システム ISO45001
を認証取得

2003年
(平成15年)

株式会社ヒロタ冷蔵の
全株式を取得し、
株式会社中野冷蔵
神奈川へ社名変更

2007年
(平成19年)

大分冷蔵
株式会社の
全株式を取得

2019年
(令和元年)

結城工場にて
労働安全衛生
マネジメント
システム ISO45001
を認証取得

2021年
(令和3年)

労働安全衛生
マネジメント
システム ISO45001
全社拡大認証取得

1986年
(昭和61年)

社団法人
日本証券業協会に
株式を店頭登録

1999年
(平成11年)

結城工場にて
品質マネジメント
システム ISO9001
を認証取得

2002年
(平成14年)

中国・上海の
合弁会社が
「上海海立中野冷蔵
有限公司」に
社名変更

2010年
(平成22年)

ジャスダック証券
取引所と
大阪証券取引所の
合併に伴い、
大阪証券取引所
JASDAQに上場

2020年
(令和2年)

結城工場に
倉庫棟を建設



1991年
(平成3年)

ハスマン社との
技術販売提携期間が
満了となり、23年間
続いた契約を終了

2004年
(平成16年)

日本証券業協会への
店頭登録を取消し、
ジャスダック証券
取引所に証券を上場

2017年
(平成29年)

結城工場に
新実験棟の
建設・稼働



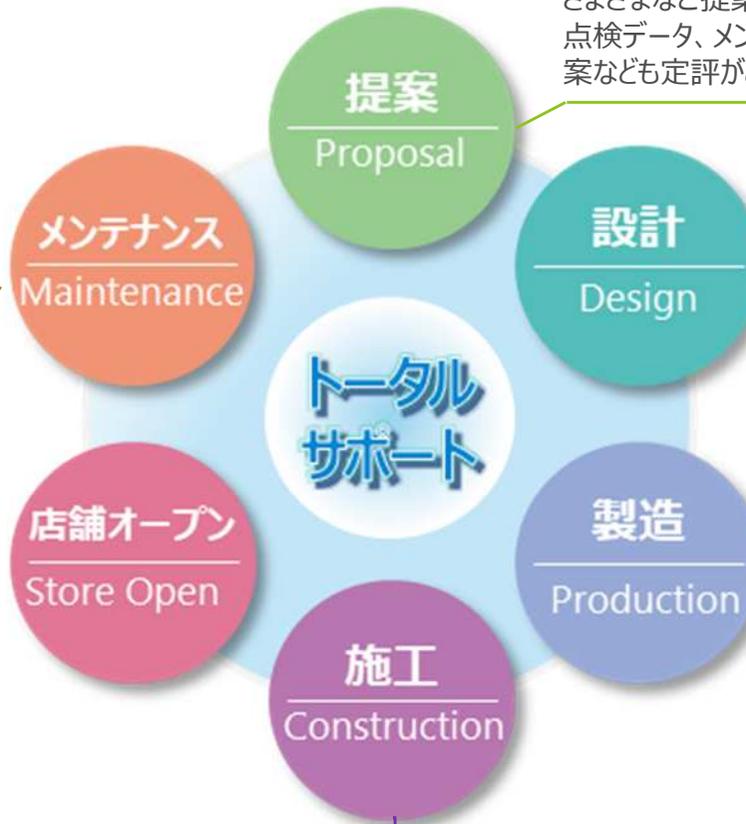
事業を手掛ける中で、営業からメンテナンスまで、一括提供できる体制を構築



独自のメンテナンス体制を活用し、24時間・365日の体制で万が一のトラブルに対応します。



最良の冷凍冷蔵設備を設計し、建築業者等との工程や取り合いを調整します。安全で高い品質の施工をご提供します。



お客様のコンセプト・ご要望に応えることのできる、さまざまなご提案を準備します。点検データ、メンテナンスデータを活用した改善提案なども定評があります。



確かな鮮度管理と省エネ対策を可能にし、お客様のご要望やイメージを実現するために、製品仕様の設計を技術部門が担当します。

コンピュータ制御の最新生産システムと熟練作業者の高い生産技術を融合させ、高品質の製品を短いリードタイムでつくりあげます。



受注

お客様が求める製品を、的確に提案・受注

- 製品の共同開発など、長期の関係性に基づくニーズを理解した提案
- 小売店の事業環境変化に対応した柔軟な対応



設計

お客様からのご要望に応じ、設計図面を作成

- 店舗レイアウト最適化のため、大半が特注品
- 省エネ・環境規制対応のための最新技術も積極提案



製造

長年の経験に裏打ちされた、信頼性の高い製品製造

- 熟練の技術者による正確・迅速な組立
- ガス漏れ、着霜の少ない、安定した品質



施工

有資格者による施工管理で、安定した品質を担保

- 設備搬入、設置、連結、電気・管工事、試運転調整
- 業界で最も厳しい水準の基準書をもとに、専門部隊が現地で指揮



メンテナンス

“もしも”に備えた、24時間対応のメンテナンス体制

- 深夜の急なトラブルにも対応できる、全国規模のネットワーク
- 予防保全のための定期メンテナンスも併せて実施



受注

各種冷凍・冷蔵施設の倉庫建設を受注

- 食品倉庫、食品加工工場、配送センター等
- 営業・設計・積算まで一括対応可能な体制



施工

有資格者による施工管理で、安定した品質を担保

- 結露、着霜が少ない倉庫を建設し、商品ロスを最小化



メンテナンス

ショーケース同様の、24時間対応可能なメンテナンス体制

- メンテナンスデータを活用した更新提案



高鮮度管理と省エネ性を追求したショーケースやシステムを提案



省力化

● スライド棚取付



● フィルター簡易清掃



省エネ

● ガラス引戸取付



従来の引戸なし仕様と比べて

年間
約 **31%**
省エネ^{※1}

● フレームレスドア付多段ケース



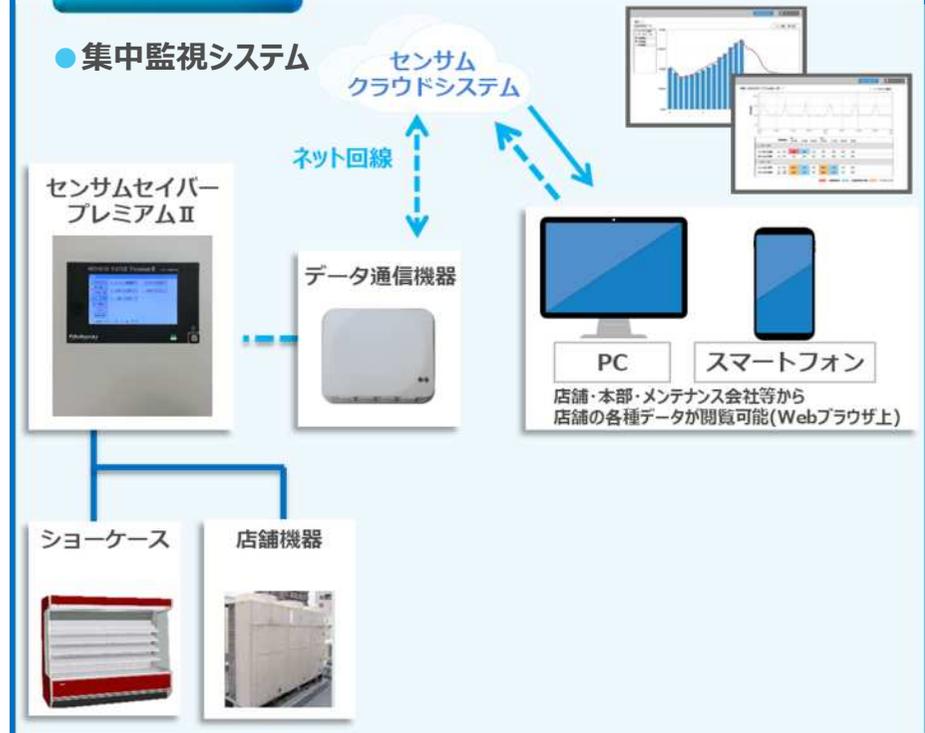
ドアなしと比べて

年間
約 **50%**
省エネ^{※1}

※1 当社比。冷媒R404A定速冷凍機の場合

安心・安全

● 集中監視システム



性能改善と多彩な機能により、省エネ・高鮮度保持・省力化・演出性の4つのニーズに対応した新しいシリーズ

省エネ

安定した庫内温度の維持

▶省エネ性の向上を目指し、エアカーテンを改良することによって温度のバラつきが小さくなりました。

2010年
fGシリーズより

約30%

2017年
ES3シリーズ(LED)より

約5%

省エネになります。

※当社比(日配多段ケース前高56Hでの対比。
セミハイは1350Hタイプでの対比となります)

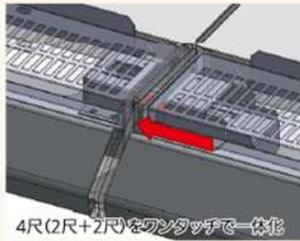
省力化

商品陳列の簡易化

●スライドデッキ機種種のラインナップ

- ▶EPシリーズではスライドデッキ標準化機種をラインナップ。
- ▶デッキを跨ぐ陳列では、デッキを連結しての引き出しが可能。

特許出願中



4R(2R+2R)をワンタッチで一体化



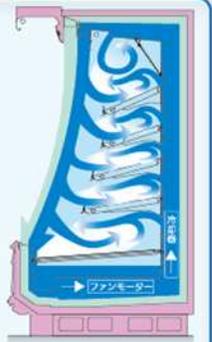
高鮮度保持

冷却構造の改良

▶ダクトの改善を図り、背面からも十分な冷気を送ることによって安定した品温の維持を提供します。

安心・安全の追求

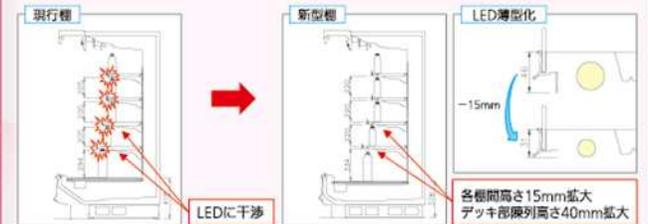
▶適正な温度監視・冷却システム制御に対応した新型コントローラーにより、温度監視を強化します。



演出性

商品陳列量拡大

- デッキ部陳列拡大
 - ▶設計の見直しにより、デッキ部の有効陳列高さが40mm拡大しました。
- 棚間高さ開口拡大
 - ▶LED薄型化により棚下有効寸法が7%アップ。500mlペットボトルが各棚陳列可能になります。



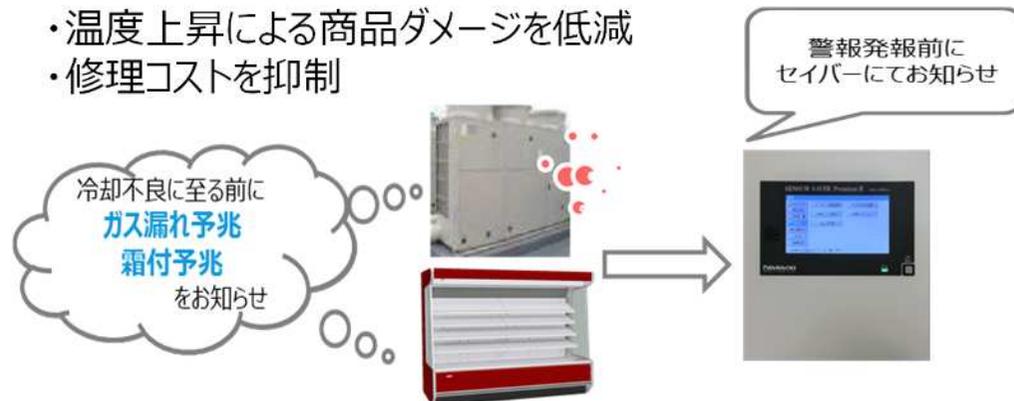
ショーケース、冷凍・冷蔵庫、冷凍機、空調機器など店舗全体の機器をネットワーク化して最適制御する『集中監視システム』で店舗全体の新鮮度管理と省エネを実現



●販売チャンスロスの低減

異常診断により故障の予兆を感知し、

- ・故障による販売チャンスロスを低減
- ・温度上昇による商品ダメージを低減
- ・修理コストを抑制



●HACCPへの対応

正確な温度記録を行い、温度データを表示・管理

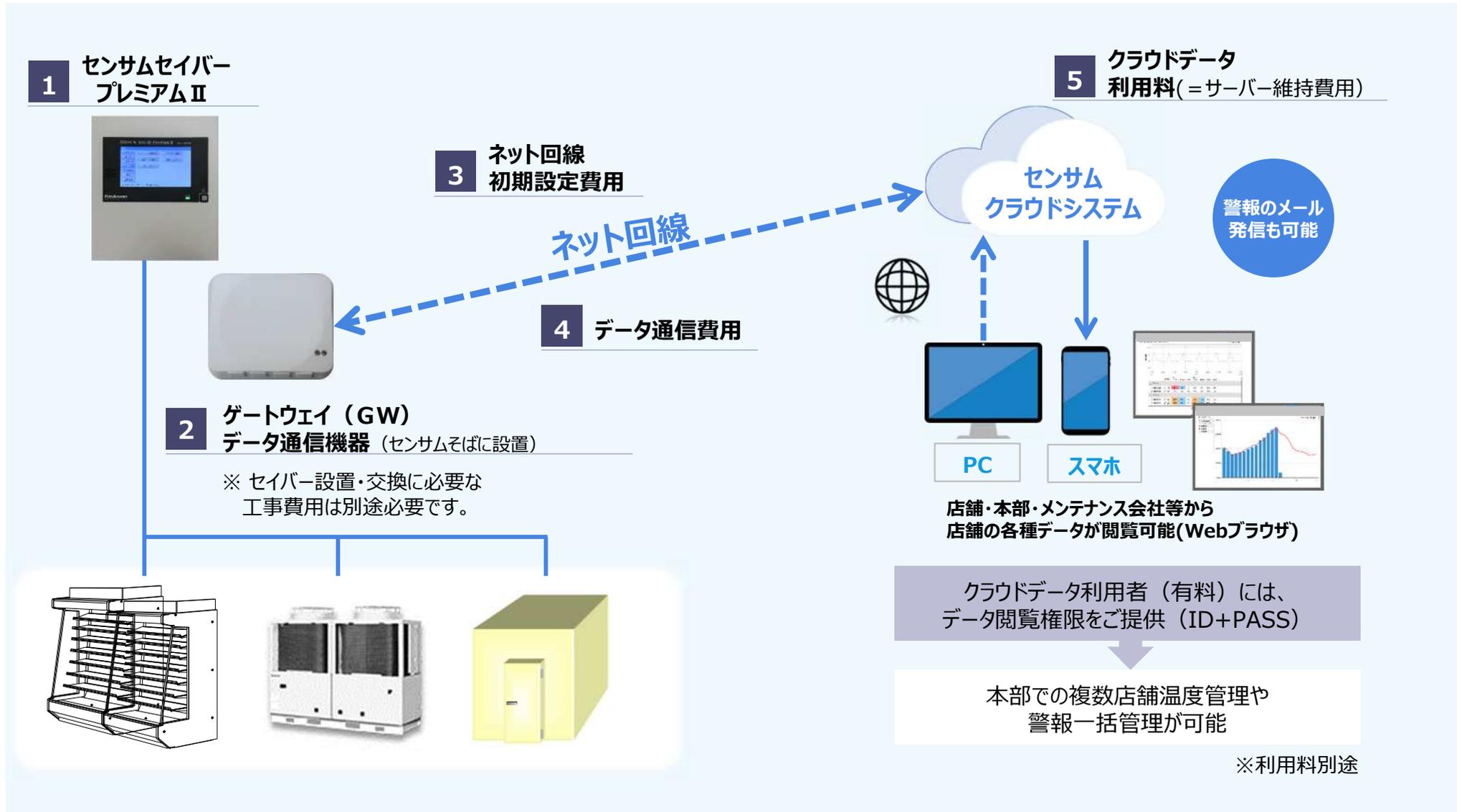
●温度管理の省力化

クラウドの活用により、店舗ごとの情報の一元管理が可能

●ランニングコストの低減

店内外の環境に合わせた、細やかな省エネ制御を実現

クラウドシステムを利用することにより、お客様本部での複数店舗の温度管理や警報一括管理が可能に



1. 本資料は法律に基づく監査手続の対象外であり、本説明会の時点において、法律に基づく財務諸表の監査手続は終了しておりません。
2. 本資料及び本説明会に含まれる予想値、将来の見通しに関する記述は、当社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。そのため、実際の業績は様々な要因により予測内容とは実質的に異なる可能性があり、当社は、将来に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
3. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、当社の株式の売買を勧誘するものではありません。
4. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。





Nakano

